

米陸軍軍楽隊コンサート開催 観客を魅了！

牛潟公民館（小山内竹一館長）で、日米交流事業として在日米陸軍軍楽隊コンサートが開催されました。地域住民を中心に約150人が来場し、ジャズのスタンダードナンバー「A列車で行こう」や坂本九の「上を向いて歩こう」など、軍楽隊の演奏に聞き入りました。

軍楽隊は神奈川県キャンプ座間に駐留し、毎年日本武道館で行われる「自衛隊音楽まつり」をはじめ、日本各地の行事に参加し、日米親善のために演奏活動。今年は馬まつりにも参加。年間235回以上の公演を行い、観客数は述べ1,200万人を超えます。

今回のコンサートは、牛潟公民館が米陸軍車力通信所を通じて軍楽隊に開催を依頼し、実現しました。



8/29
牛潟公民館

観客を魅了した軍楽隊（写真提供：牛潟公民館）

ダイヤモンド婚・金婚 これからもお幸せに

9/13
松の館



倉光市長から顕彰状を受け取る夫婦

松の館で福祉顕彰式が行われました。今年は88歳到達者夫婦30組、結婚60周年のダイヤモンド婚夫婦8組、結婚50周年の金婚夫婦25組に顕彰状が贈られました。

倉光市長は「これからの生涯も、ここつがる市で穏やかに、心豊かな生活を送られることを願います」とあいさつしました。

式を終えたダイヤモンド婚夫婦の秋田谷為清さんと重子さんは「お互いに“ありがとう”を伝え合い、けんかもなく過ごしてこれた。これからも元気に一緒に過ごしていきたい」と話しました。

車力小・米陸軍車力通信所 かかし作りで日米交流

東北防衛局（市川道夫局長）主催の日米交流かかし作りコンテストの表彰式がリモート形式で開催されました。車力小5年生児童と米陸軍車力通信所のメンバーたちは、モニターを通して、互いに受賞結果やかかし作りの感想を伝え合いました。

米陸軍車力通信所のノリエル・リー所長は「かかし作りを通じてすばらしい交流になった。これからも地域との交流に力を入れていきたい」と話しました。

9/16
牛潟公民館



見事金賞を受賞したかかし（左）、リモート表彰式の様子（右）



藤田彩加さん JICA海外協力隊員としてヨルダンへ



9/21
市役所

ヨルダンの人たちにつがる市の文化も伝えてきたいと笑顔の藤田さん

JICA海外協力隊員としてヨルダンに派遣される藤田彩加さん（柏出身）が、出発の前に倉光市長を表敬訪問しました。藤田さんは、2018年にもヨルダンに派遣されましたが、新型コロナウイルスの影響により2020年3月に任期途中で帰国。今回2回目の派遣となり、2年間現地で障害者支援などの活動に取り組みます。

藤田さんは「障害のある子どもたちの生活の質を向上できるように活動していきたい」と倉光市長に抱負を語りました。

秋の交通安全運動実施

9/21
市商工会前
交差点



秋の全国交通安全運動（9月21日～30日）の初日、市交通安全対策協議会やつがる警察署、つがる地区交通指導隊、市交通安全母の会連合会などの関係者約30人が参加し、出動式を行いました。

協議会会長の倉光市長は「これからの季節、日の入りも早く夕暮れ時の事故が起きやすくなる。関係機関が一丸となって交通安全対策に取り組むことが重要」とあいさつしました。

出動式の後には街頭活動が行われ、参加者たちはチラシや反射材などを配り、ドライバーに交通安全を呼び掛けました。

9/22
しげた保育園



ドライバーにチラシや反射材などを配布し交通安全を呼び掛けた警官や母の会会員たち（上）
手作りプラカードで安全運転を呼び掛けた園児たち（下）

また、しげた保育園では稲垣駐在所や交通指導隊、民生委員の協力を得て、年長・年中児24人が、保育園付近の道路でドライバーに手作りの交通安全マスコットを配布。元気な声で安全運転を呼び掛けました。街頭活動を終えた園児たちは、交通安全のためには「左右しっかり見ることが大事」と話してくれました。

縄文遺跡の魅力を未来へ

北海道・北東北の縄文遺跡群の世界文化遺産登録1周年を記念し、市教育委員会が世界遺産登録記念フォーラムを開催しました。

木造高校吹奏楽部のオープニング演奏から始まり、遺跡PR用看板キャッチコピーの選考結果発表と表彰式が行われ、最優秀賞には瑞穂小6年の片山奈保さんの「世界にかがやけ縄文遺跡」が選ばれました。

また、是川縄文館の小久保拓也副参事と小牧野遺跡保存活用協議会の竹中富之代表理事が、遺跡の保存や活用の取り組み状況などについて講演したほか、市教育委員会羽石智治学芸員が、市の遺跡の活用・整備における課題や今後の取り組みなどを報告。さらには、NPO法人つがる縄文の会川嶋大史理事長がコーディネーターとなってパネルディスカッションも行われ、参加者たちは遺跡の活用方法などについて考えを巡らせました。

9/23
松の館



パネルディスカッションで遺跡をどう活用し魅力を伝えて行くかアイデアを出し合うパネリストたち

津軽まほろば会 15周年を祝う

9/24
東京都内



総会に出席した皆さんで記念撮影

関東在住の市出身者などでつくる津軽まほろば会の設立15周年記念総会が東京都内で行われました。倉光市長をはじめ市関係者なども上京し、再会を喜び合いつがる市の話題に花を咲かせました。

総会で、長谷川亨会長は「残念ながらコロナ禍のため規模縮小しての開催ですが、市関係者と会員の交流が深まることを願います」とあいさつしました。

総会に先立ち、NPO法人つがる縄文の会川嶋大史理事長が「世界遺産への道のり」と題して講演したほか、津軽の民謡演奏も行われ、会員たちは故郷の雰囲気を楽しんでいました。